

音楽ディレクターである福山氏が、京都学生人口約30万人の中から「京都版モーニング娘。」を作り上げる事を目標した本企画。既に14号を連載し、関西圏では本コーナーにスクリーンアップされることが、デビューへの登竜門とされていると評判。

Vol.15



アイドル発掘

リサーチんぐ娘。

6月某日、TRUTH PLANNINGのARLEY氏に連れられ編集部に来た悠三子ちゃん。先月のリサ娘。同様、顔がひびく程緊張していた様子。だがインタビューが進むにつれ、編集長のシエネレーションギャップを感じさせないトークも功を奏して表情はメルトダウン。ゆるゆると本音もボロリボロリ、拳句の果てには進路相談まで始まったのでした。

エスプリ漂うセンスにオトナも感服
エキセントリック少女

編集長：いや〜今回のリサ娘。の悠三子ちゃんは第一印象と全く違ってたなあ。ええ意味で裏切られたわ。

福山：そうっすね、最初はオットリした「妹系」かなってね。若い子にありがちの「周りと一緒になきやイヤ」ってタイプかと思いきや、とんでもない(笑)

ARLEY：シッカリしてましたよね。もうキャラクターが出来上がっているというか自立心が強いというか。

福山：将来なりたい自分の姿ってのがある程度ハッキリしてたからね。デザイン系に進みたいという。

編集長：そやな、学校は理系の特進コースってゆうてたけど、どっちかゆうたら右脳型のセンスが光ってたな。プリクラ帳にしてもまだベタベタ貼るんじゃなくて、ぱっちりレイアウト組んでライターとかイラストを織り交ぜるってな具合で。

ARLEY：月イチで開催されてる市役所前のフリマでNIKEとかのペーシューを集めてたり、服もハンガーじゃなくてトルソーに掛けてディスプレイしてるって言ってましたよね。

編集長：インタビューの時着たポロシャツもIZODじゃなくてフレンチラコステやったし、高校生ながらにセンスの良さが垣間見えたよな〜。

福山：医者のお父、ファッションデザイナーの母を持つサラブレッドながら自分の道は自分で切り開くっていう姿勢が好感もてますね。小・中は私立のお嬢様学校通いながらも、肌に合わないって高校は公立の高校へ自ら進んだりして。

編集長：やっぱり自分のやりたいコトやらアカンねん。オレもそうやったけど、自分の描くビジョンに向かって努力したら後悔はしないひんしな。

ARLEY：はあ、なんだか関心させられっぱなしでしたよ。

編集長：おいおい、オレらがほだされてたらアカンやろ(笑)



Entry. 0019

垣田 悠三子

かきた ゆみこ
1987.2.16生まれの16歳
身長153cm B79.W60.H82 O型
自称「汚れキャラ」と言う彼女のマイブームは木屋町御池の「MODERN」のランチ。運が良けりゃ出会えるかも!?

「アイドル発掘☆リサーチんぐ娘。」では現在、うら若きアイドルの卵を大募集！ 自薦・他薦は問いません。興味のある方はdtj@m21.or.jpまでしどしど写メールをお送り下さい。

現在「リサーチんぐ娘」のIP制作中、HPで見られるIP PHOTO掲載。高者投票制による特別企画も予定！要チェック！



テクノロジーの
原点に戻る
医師たちの
汗と涙の結晶

昭和40年代を境に押し寄せたデジタル化の波によって眼科・外科医療機器の祖が消え行く事態を見て、「これはいかん！」と収集に立ち上がった眼科医・奥沢先生。明治期の医家の佇まいを留めた先生の生家に集められた製薬道具、診療器械、手術器械、医療用消耗用具などは、西洋医学が流入した明治初期の輸入器具から、日本の医師たちの精励によって発展してきた国産器具にまで至り、医療技術の進化過程を細やかに辿っている。医療の黎明期に身を投じた医師たちの努力の結晶そのものなのだ。

「当時は家一軒買えた」という1929年ドイツ製の学習用顕微鏡。9人が同時に患者の眼底を覗ける圓形の診療器械



祖父の代から眼科医を務める奥沢先生が25年の歳月を費やして展示品を集めた博物館。入館は無料だが、Eメールでの事前予約が必要



眼科・外科歴史博物館
かんか-げかれきしはくぶつかん
■京都市東山区下京区川城通正面橋西入ル
☎075-391-7721 (奥沢眼科)
mushokun@mtg.biglobe.ne.jp



ドイツ・カールツァイス社製の明治中期の鏡筒、明治初期の注射器、明治期の点眼薬、貝殻に詰められたすり傷・やけど・湿疹などの万能薬「青龍膏」



It's a world ver.



東洋が誇るイデオグラムの世界

なぜ漢字資料館にレーシングカー？ 細かいことは気にしないでよく見てみると、車体に関係する漢字だらけではないか！

アカデミック・シティ京都に隣り偉大なるミニマム博物館を標榜した京都チャリナル「It's Small World」や、独自の情報網から入手した世界観。京都CF1が徹底検証する知的教養コーナー！

漢検志願者は要・参拝！
アンチ漢字族の治療所なり

「日本語のルーツである漢字にもっと親しんで欲しい！」という願いから発足した(財)日本漢字能力検定協会は、言わずと知れた「漢検」のプロデューサー。同協会の本部に開設された「漢検 漢字資料館」もそんな熱意の象徴である。師走の恒例行事「今年の漢字」の歴代作品や、漢字の歴史を遡る展示コーナー、日中両国で募った四字熟語マンガ、ゲーム感覚で漢字に親しめる体験コーナーなどを凝縮した体験型知的空間。興味有る無しに関わらず、どっぷり漢字ワールドに浸かれマス！



館内の随所に設けられた漢字クイズの全問正解者は、見学記念カードを作成してもらえます。不正解者は100円の寄付金を投じて獲得しよう。入館は無料
漢検 漢字資料館
かんげんかんじりょうかん
■京都市下京区烏丸通松原下五条烏丸町398
☎075-352-8300
10:00~17:00/日祝休



漢字の貝合わせゲームや拓本コーナーなど、年代を問わず夢中になれる体験スペースのほか、漢検攻略に役立つ参考書も多数揃う。ちなみに次の漢検は10月26日だ

自称「思い込みが激し過ぎるライター」
中尾が、日常に潜んだ謎や疑問を勝手に
解釈、説明するアナーキーコーナー……！

美人っておトクよね〜
泉涌寺を参拝→楊貴妃観音に出会う→
仏教界におけるアイドルの存在を知る

推定ライト
スクープ



ストラップのヘッドには、ありがたい楊貴妃観音さまのブリクラが。フタの部分にはキミのブリクラも貼れるぞ！

3年くらい前のこと。美しい紅葉が見たくて、泉涌寺を訪れた。紅黄緑のグラデーションに夢心地で歩いていると、「美人祈願」と書かれた、なんとも魅惑的な看板に出くわした。泉涌寺には、宋の時代に来日した極彩色の美しい観音さんがいらっしやる。絶世の美女にちなんで、その名を楊貴妃観音という。いない暦早年、ここでお参りしないわけにはいかない。ところが、初めてお目にかかった美人には、なんとオヒゲが生えていた。それも、「おお、ビエール！」って感じの。しかし諸君、これはオヒゲではないのです。微笑をたたえた彼女の「笑いジワ」なのよ。それもどーかと思うけど、もっとスゴイことに彼女は仏教界のアイドルで、ストラップやら生写真まで売られていた。要するに、ホトケ様の世界でも美人は重宝されるってこと。なんだか分からないけど、その時ついついストラップを買ってしまい、今月の特集が「京都の贈りもの」って聞いて、思わずひっぱり出してしまいました。さて、ほぼ1年にわたって連載を続けてきたこのコーナー、今回で最終回となります。人知れずネタ探しに苦労もしたけど、今となってはいい思い出。ありがとうございました！

医療の夜明けを垣間見る町家博物館

